

# 平成29年度 東播磨地域稲作気象台情報 第1号

発行:平成29年7月吉日  
東播磨農業改良普及事業協議会

## 1. 気象状況

気象庁によると今年の梅雨入りは6月7日頃で、昨年より3日遅く、平年並みとなりました。梅雨入り後、6月中旬はほとんど降雨がありませんでしたが、それ以降、気温・降水量ともに概ね平年並みとなっています。

## 2. 生育状況

加西の県立農林水産技術総合センターの気象感応調査結果(6月26日現在)

品種	草丈	茎数
キヌヒカリ	30cm(平年比 95)	192 本/m <sup>2</sup> (平年比 85)
ヒノヒカリ	22cm(平年比 110)	74 本/m <sup>2</sup> (平年比 99)

## 3. 病害虫発生予察調査結果 (7月11日 定点19ヶ所調査)

### (1)病害の発生状況

- ・いもち病 : 発生は見られませんでした。
- ・紋枯病 : 加古川市北部で発生が見られました。
- ・縞葉枯病 : 加古川市北部で発生が見られました。
- ・ばか苗病 : 発生は見られませんでした。

### (2)虫害の発生状況

- ・ヒメトビウンカ : 密度は低いですが、多くのほ場で発生が見られました。  
昨年、縞葉枯病が発生したほ場は注意が必要です。
- ・セジロウンカ : 密度は低いですが、発生が見られました。
- ・トビイロウンカ : 発生は見られませんでした。
- ・ツマグロヨコバイ : 密度は低いですが、発生が見られました。
- ・フタオビコヤガ : 発生は見られませんでした。
- ・イネミズゾウムシ : 加古川市南部のほ場で食害痕が見られました。
- ・その他の虫害 : 高砂市、加古川市北部のほ場でバッタ類による食害痕が見られました。

## 4. 今後の管理

### (1)病害虫防除

今回の調査で葉いもちの発生は見られませんでした。しかし、今後の気象条件や生育状況によっては、発生する可能性があります。葉色の濃い箇所や日当りの悪い箇所などは観察を継続し、葉いもち病が発生していないかを確認して下さい。多発する場合は、栽培こよみ等を参考に治療効果の高い薬剤で防除を実施しましょう。なお、薬剤は使用時期(収穫前日数)や使用回数等の使用基準を確認、遵守の上、散布して下さい。

### \*斑点米(カメムシ類)対策の徹底を

斑点米の原因となるカメムシ類は、雑草が繁茂しているところに集まり繁殖します。水田周辺の畦畔等の草刈りは出穂の2週間前までに終わることが重要です。合わせて、カメムシ類の居場所をなくすため、周辺の休耕田、池の堤や法面等の草刈りをしましょう。なお、出穂期の草刈りは、カメムシ類を水田に追い込み逆効果となる場合があるので注意が必要です。

## (2) 水管理

### <キヌヒカリ・コシヒカリ・あきたこまち>

中干しが終わり、入水時期となります。中干し期に出た新しい根を湛水状態に馴らすため、間断灌水(田面に水がなくなれば入れる)を実施し、丈夫で活力のある根を維持しましょう。

### <ヒノヒカリ>

有効茎数の8割(株当たり18~20本)が確保できたら幼穂形成期までの間に1週間程度中干しを行います。排水不良田では早めに始め、強く行いましょう。中干し終了後は、間断灌水に切り替えましょう。

## (3) 施肥管理

穂肥は中干しの終了後、減水が落ち着いてから適期に実施しましょう。穂肥の時期・量は、稈長や一穂粒数への影響が大きいので、出穂期予測及び葉色・葉鞘のヨード反応などの生育診断に基づき決定しましょう。

基肥に緩効性肥料を入れる一発施肥の省力体系でも、高温が続く場合は肥切れを起こすことがあるのでよく観察しましょう。なお、葉いもちの発生ほ場では、いもち病の発生状況によって穂肥を調節(発生があれば控えめに)しましょう。

こちらの稲作气象台情報は、あかし農協のホームページでもご覧いただけます。

<http://www/ja-akashi.or.jp/>

あかし農業協同組合